



総務省

Ministry of Internal Affairs
and Communications

地域人材ネット

地域課題をデザインとネットワークから未来の価値創造をめざす

鈴木 輝隆 (すずき てるたか)

立正大学経済学部 特任教授



○ 登録者情報

所在地

東京都品川区

略歴

1988年～2009年 地域振興アドバイザー
2007年 地域活性化伝道師

著書・論文等

「新・羅針盤 自由で豊かな妄想から魅力あるまちづくり」(2019年6月)
「地域デザイン創造とネットワーク」(2018年10月)
「日本上流文化圏研究所の設立と地方での下河辺淳の活動」(2017年6月)
「地方の魅力を再発見する観光情報発信」(2016年11月)
「世界の人が憧れる町と資源家」(2016年1月)
「地域のしごとと自治体政策」(2015年11月)
「気づきの現代社会学Ⅱ 日本の再構築・コミュニティから日本を元気にする」(2015年6月)
「みつばち鈴木先生-ローカルデザインと人のつながり」(2014年5月)
「気づきの現代社会学 国土デザインとローカルデザイン」(2014年9月)
「ろーかるでざいんのおと(田舎意匠帳)あの一とが面白い、あのまちが面白い」(2005年12月)

○ ローカルデザインとネットワークから地域の未来の価値創造

取組の内容

北海道清里町

1979年に発売した清里焼酎のブランド化の依頼があり、2012年11月から総合プロデューサーとなり、デザイナーやコピーライター、写真家からなる6名のチームを作り、住民と一緒にリニューアルに取り組んでいます。2014年9月にデザインを一新し、清里焼酎のブランド化に成功し、その後、2016年から清里町のまちごとブランディングを依頼され、2019年にはさまざまな情報発信を始めています。

愛媛県内子町石畳地区

2015年に、人口300人、高齢化率50%以上の石畳地区の未来への存続をかけた住民自治による地域の経営を改善するための総合プロデュースを依頼されました。クリエイターでチームを作り、さらに多彩なネットワークを活用して、農産物の価値創造から地域特産品や観光振興の事業化を目指して住民が展開をしています。

北海道東川町

東川町は豪雪地域の小さな町でありながら、人口が7,000人から8,000人以上に増加しています。全国でも珍しい上水道のない地下水の町、写真文化首都を宣言し写真甲子園などを開催する写真の町として知られています。全国初の町立の日本語学校の運営や町内の起業家育成から新しい経済も生み出そうとしています。そこで町を応援してくれる多彩な企業や才能系の人材のネットワークを構築の仕事をしています。

北海道北竜町

社会の変化の激動する時代に、一次産業の仕事しかない地方の小さな町はどのように未来を生き抜いていくのか、難しい日本の課題です。国内屈指の高品質米の生産とひまわりの町として知られている北竜町は、未来に夢が持てるまちをめざすべくプロデュースしてほしいと依頼があり、地域創生のお手伝いをするようになりました。

実績

北海道清里町

リニューアルされた清里焼酎は、2015年にグッドデザイン賞、ニューヨークのOne Show 2015を受賞し、現在では価格を値上げしても売り上げは伸びて、販売実績は2倍となり、清里町の知名度を大きく上げることができました。さらに、雄大な自然と丁寧な暮らしを発信するため、“純度も可能性も全力100%の町”をコンセプトにしたロゴマーク「清里100%」の作成と、風景を活かしたポスターやステッカー、胸張りバッジを制作し、話題となっています。

愛媛県内子町石畳地区

農産物の商品化が進み、2018年3月に東京駅前のKITTEにオープンした愛媛県のアンテナショップにもコーナーを設け、さらに企業とのネットワークから松山市でも栗製品などの販売、大手飲食業との商品開発など事業を展開しています。石畳に共同体の会社を立ち上げるため、勤めを辞めた住民4人を中心に、地域商社を起業していきます。

北海道東川町

世界から敬愛される文化と経済のある町をめざして、良品計画やレオスキャピタルワークス、小布施堂などとネットワークして、留学生とのワークショップや企業説明会などを行い、留学生への仕事の提供や就職斡旋の場づくりを行っています。企業からは留学生のための設備改良への寄付などもあり、新しい地域と企業のパートナーシップも築かれつつあります。

北海道北竜町

個性の追求が価値創造と考え、住民とネットワークを活用し可能性を現実化しています。新保育園は文化的でひまわりの町にふさわしい建造物にしたいと建築家の隈研吾氏に依頼し、北竜町産カラマツがふんだんに使って完成し、子どもや町民は開園を楽しみにしています。また、北竜町の米づくりを『あかるい農法』というコンセプトとデザインに集約。デザイナーの梅原真氏が制作しリニューアルしたふるさと納税礼品用の米袋も話題となっています。さらに、世界に誇れるひまわりの里をめざして、ひまわりの里基本計画策定委員会を設置し、隈氏の新展望台も提案されて、期待されています。

味をかたちに

石畳には、地元農家が愛情を込めて育てたまごまな農作物があります。その滋味と、石畳らしいいねいなものづくりを活かして気持ちを込めた手づくりの商品を販売しています。また、経済活動の拠点となる住民経営の会社を立ち上げるなどして、地域の方をつなげています。



ひらき、つながる

石畳を運び、移住してくる若者たちがいます。そのひらきが伝統的な「内子炭」づくりの技を得て炭の高級品「菊丸」を生産する職人となっています。また、東京瑞穂町で消えかかっていた板締め染めの技術を伝承し、ファッション製品を開発しようとする取り組みも進んでいます。



風景に磨きをかける

屋根つき橋のかかる弓削神社、水車のある清流園は住民がつくってきた石畳を代表する風景です。古民家を利用した宿泊施設「石畳の宿」や週末カフェをはじめ、訪れた方にさらに楽しんでいただける村でありたい。これからの風景を、それぞれが思い描いています。







山田家



ゆうちゃん夫妻

石畳の架のこと

屋根つき橋のかかる弓削神社、水車のある清流園は住民がつくってきた石畳を代表する風景です。古民家を利用した宿泊施設「石畳の宿」や週末カフェをはじめ、訪れた方にさらに楽しんでいただける村でありたい。これからの風景を、

ひとつ守る、ひとつ変える

「やりたいことを、やりたいようにやってみる」
「やりたがりを、楽しみながら応援する」のが石畳流。
風土を生かして、新たな取り組みを始めています。

工夫した点や苦労した点

地域にはなかったデザイン手法を取り入れていくため、デザインへの認識を高めるために、子どもたちの参加やワークショップを開催しました。一方、企業を現地に紹介し、企業のミッションや仕事の仕方、多様な考え方やネットワークの大切さを学ぶことができました。経営のトップや才能系の人と地域が交わることで、新しい視点やアイデアが出て発見があり、モチベーションが高まりました。

ひとことPR

「変動性」「不確実性」「複雑性」「曖昧性」の時代には、現在の国内外のトップクラスの企業人や建築家、デザイナーの人たちとのネットワークから生まれる展開に面白さを感じています。未来型の地域経営はオリジナリティが大切で、地域の可能性を増やしていくためには地域外の協力者が求められ、デザインだけでなく社会的影響力を持った人をネットワークすることによって結果が出ます。地域にはデータと総合的なプロデュースが求められる時代だと思えます。

○ 参考

取組の分類

地域人材ネットでは、登録者の取組を11の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

	1	地域経営改革		7	まちなか再生
○	2	地場産品発掘・ブランド化	○	8	若者自立支援
	3	少子化対策		9	安心・安全なまちづくり
	4	企業立地促進		10	環境保全
○	5	定住促進		11	その他
○	6	観光振興・交流			

関連ホームページ

立正大学	http://www.kgpro-ac.com/riuhp/KgApp?kyoinId=ymemgevdggy
科学技術振興機構	https://researchmap.jp/read0063463/

連絡先

メールアドレス	sterutaka [アットマーク] gmail.com	その他	
---------	------------------------------	-----	--

※メールを送る際には[アットマーク]を『@』に変えてください。